

■ 過ぎ越しの祭り

紀元前1400年頃、イスラエルの民はエジプトの地で奴隷にされていました。そして、エジプトに虐げられ苦しみを受けていました。民の叫びを聞いた神様は、イスラエルを救い出す為に、エジプトの全ての家に災いを下しました。

しかし、イスラエルの家は、災いが過ぎ越して行きました。ほふられた子羊の印を持つ家には、神様が災いを下さなかったからです。災いから救われる為には、子羊の犠牲が必要だったのです。この救いの出来事を祝い、記念する為に毎年行っていたのが、過ぎ越しの祭りでした。

■ 今日の個所の背景

イスラエルのカレンダーでは、過ぎ越しの祭りの時期でした。そして、イエス様にとっては、地上で過ごす最後の過ぎ越しの祭りとなります。イエス様は、この過ぎ越しの祭りの時にご自身が十字架に付けられることを知っていました。イエスの十字架の印を持つ人々が救われる為です。

■ メッセージのポイント

もう、イエス様と弟子たちに残されたのは、一日より短い時間です。今日の個所は、イエス様が弟子たちに遺した「新しい戒め」の教えです。

- (1) 「互いに愛し合うなら、あなた方はイエスの友である」と教えました。しもべと友とは、大きな違いがあります。しもべは主人がしていることを知っていません。しかし、友ならすべてを知っています。しもべは、仕方なく主人の命令に従いますが、友には喜びがあります。
- (2) 「互いに愛し合うようにとあなた方を選び任命したのは、イエスである」と教えました。弟子たちとの関係の出発点は、イエス様の選びと任命にありました。選びと任命の主権がイエス様にあるということは、その責任もイエス様が負って下さるということです。
- (3) 「イエス様ご自身が、互いに愛し合うことの模範となって下さった」と教えました。「互いに愛し合う」ということばの前に、「わたし(イエス)があなた方を愛したように」という条件が付いています。翌日、弟子たちに示したご自身の愛を、イエス様は十字架の上で全うしました。
- (4) イエス様は、これまで「隣人への愛」を強調していました。しかし、十字架に掛かる前日には、「互いに愛し合う」戒めを遺しました。弟子たちの置かれた状況の中で、差し迫って必要だったからです。イエス様は、弟子たちがこれから受ける苦難と迫害を知っていたのです。